

SPECIAL

九州自然歩道を歩く

(長崎県内212km) Text & Photo 末永直樹



毎年、年末年始に各地の山に登ることが15年ほど続いている。今回は「九州自然歩道」を歩くことにした。

自然歩道とは環境省が計画し、各都道府県が整備を進めている長距離自然歩道である。1970年の東海自然歩道の整備に始まり、九州・中国・四国・首都圏・東北・中部北陸・近畿と8つの自然歩道が整備されている。北海道が完成すれば総延長は約26000kmとなる。

九州自然歩道は1980年に全線が開通した2920kmの長距離自然歩道で、今回は長崎県の212kmを9日間で歩いた。

【1日目】 南島原市口之津町・南島原市北有馬町 論所原 テント泊 18km
旅は、自宅からMR駅までの歩きからはじまった。通りなれた道なのに不思議と新鮮な感覚がある。乗換時間も合わせて約5時間で口之津港に到着。

午前10時から歩き始める。長崎県内の九州自然歩道は車道が多いが、一部の地区を除いて商店はほとんどない。そのため食料と幕営用具で17kg程の荷物となった。ルート確認をしていると、つぎたてのあんこ餅を頂いた。それを友人に話すと、「物欲しそうに見えたのだろう」と言われた。北海道の知床半島では、ヒグマと遭遇して、番屋で復路の弁当も含めて、なんと7食もお世話になったことがある。賄いのおばちゃん曰く、「あなたが一人で息子と同じ年だったから」と。単独での登山は、一般に危険が大きいのと言われていたが、日本アルプスの夏山縦走などは単独の登山者も多く、テント場などの見知らぬ同士のふれあいも楽しい。単独行は地元の人との出会いが楽しみでもある。

【2日目】 論所原・雲仙市千々石町 田代原キャンプ場 テント泊 23.8km
当初7日間で歩くつもりだったが、予定にこだわらず、ふれあいを大切にすることにした。と言っても、歩道のほとんどが人気のない地域を縫うように作られたルートなので、石垣や田畑から生活と歴史を感じるといふ旅だ。最も印象に残ったのが『みそ五郎伝説』で知られる高岩山のふもと標高450mにある谷間の「搭の坂」という趣のある集落。長崎県でも最も寒い地区なのではと感じた。

【3日目】 田代原キャンプ場・諫早市飯盛町 牧野 テント泊 24.9km
千々石断崖沿いに、橋神社に下山して初詣。東日本大震災からの一日でも早い復興を願う。橋神社には、陸軍学校長を歴任して38歳の若さで日露戦争で戦死した橋中佐が建立されている。つい、自分の年齢を考え人生を振り返ってしまった。

【4日目】 牧野・長崎市西山水源地 知人宅泊 25.9km
この日は長崎市内まで歩き知人宅に宿泊の予定。結局、今回の旅は日の出から日没までを基本的に行動した。終日行動しても30km程度しか移動していない。耐久レースではないので、それで良い。

車道歩きが続くので長崎市内に入ってスニーカーを買って、その場で登山靴と履き替えた。結局、その後は全てスニーカーで歩いた。



橋中佐をまつる千々石の橋神社。世界一の高さの門松だ。



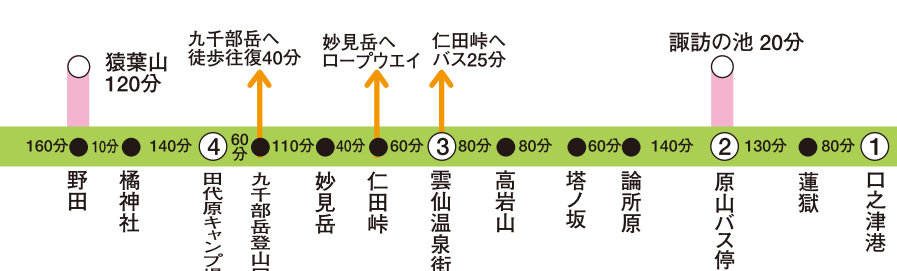
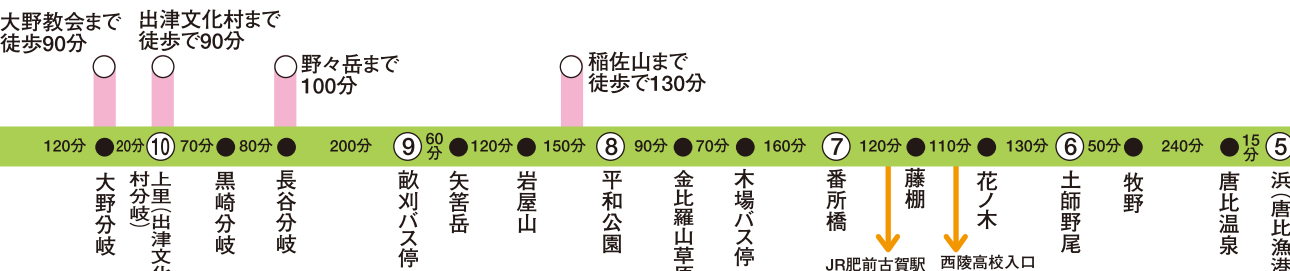
雲仙の小地獄温泉の上を通る。



西海橋の手前の海沿いの道。石垣が綺麗だった。



5日目の夜は雪の岩屋山でテントを張った。



末永直樹プロフィール
社団法人日本山岳ガイド協会認定登山ガイド。登山教室モルゲンや平戸カヤックスを主宰する。知床半島縦走や雪山の北アルプスなど登山歴多数。佐世保市を拠点に登山ガイドとして活躍している。





当初は地図とコンパスを常に確認しながら歩いてきたが、道標がしっかりしていることもあり、つい道標に頼ってしまい、何度も道をそれた。長崎県の自然歩道は車道よりも登山道のほうが迷い難い。

今回の資料は15年ほど前に、県の事業で作成された15枚の地形図をもとに歩いた。しかし、調査からかなりの歳月が経過していたため、標識が壊れていたり、藪の中に隠れて見えなかったり、区画整理があったりして歩道が寸断されていると思われる箇所もあった。

昨年歩いた厳冬期の北アルプス単独縦走とは危険性は比較出来ないが、山沿いの集落を通りながらの自然歩道は、どこでも止められるという容易さがあった、ある意味昨年以上に精神的に苦しいはずであったが、途中で出会った人たちが飼い犬や猫とのふれあい、そして、微妙に変化していく言葉のイントネーション、はじめて訪れる風景と集落に新鮮でわくわくする感覚が出てきた。それがまさしく、環境省が唱える自然歩道の意義なのだろう。



針尾島を縦断して早岐瀬戸に出た。



平松の集落をのぼって、道は隠居岳へと続く。



朝もやがただよう針尾の瀬戸と針尾無線塔。

〔5日目〕 西山水源地〜長崎市 岩屋山 テント泊 10.7 km
 この日は知人と平和公園まで歩き、その後、岩屋山で幕営した。夜半からは雪となった。岩屋山は長崎で生活していた時期にトレーニングしていた山だ。この山には毎日のように登る方が何人もいる。中には定期券を購入して、岩屋山に通勤する登山者もいて、なんと年間300回以上登る人も。

〔6日目〕 岩屋山〜長崎市上黒崎町 テント泊 21.2 km
 畝刈町から自然歩道に入る道標が見当たらず苦労した。その後も、道標の見落としなどで、距離で3割増、時間で5割増程度の感覚があった。

〔7日目〕 上黒崎町〜雪の浦ダム テント泊 27.1 km
 長崎県民の森を通過。さすがにこの辺りは道標もすっかりしており、距離を稼ぐことができた。県民の森はかなり広大な敷地で設備も整っており、もつと広く県民に利用してもらいたい。

〔8日目〕 雪の浦ダム〜西海市 七釜鍾乳洞分岐 自宅泊 16.7 km
 地元のおじいちゃんから、「そこは行き止まり、行けんぞ」と話をかけられ、自然歩道の道標が落ちていたのを教えられた。朽ちた道標はやぶに覆われて教えてもらわなければかなり苦労していると思う。ルートはシダの藪になっていた。そのような状況下で、応援に来てくれた知人と昼すぎにピンポイントでうまく合流できたのは感激だった。その後、携帯とカメラの電池充電のため知人の車で一時帰宅。

〔9日目〕 七釜鍾乳洞分岐〜栗ノ木峠 ゴール 43.7 km
 昨日の終了地点まで知人に送ってもらい、早朝6時から歩き始める。海が見えて綺麗だ。いつものように写真を撮りながら地域住民との会話を楽しんで歩いた。

早岐で寄った中華料理店のおばちゃんから、「娘の妊娠時と出産後に2回、オサエ観音にお参りした」という話を聞いた。隠居岳を越えてオサエ峠へと登る。

最終日は夜道を歩き21時過ぎに、ゴールの栗ノ木峠に到着。案内板には佐賀県が表示があり、九州自然歩道の長崎県内を完歩した。

